飛騨匠の歴史年表
飛騨匠ストーリー
飛騨国府へのアクセス
日本遺産のまち、飛騨国府。
飛騨匠の技・こころ
―木とともに、今に引き継ぐ一三〇〇年―
飛騨匠の声を聴こう。
Hida Kokufu Guide Map
飛騨国府 Hida Kokufu
日本遺産とは?
地域の歴史を物語るストーリーのこと。
かにかくに
物は思はじ 飛騨人の
打つ墨縄の ただ一道に
飛騨匠ストーリー
1300年前に遠く奈良の都に赴くことになった飛騨の人々。
そこから、飛騨匠の物語が始まり、
その技と心が現代の飛騨の地にも息づいています。
1300年前～
都では、「養老令」という法律で、
飛騨の人たちは、
当時の税のかわりに
その腕前をかわれ
都に働きに
行くことに
なりました。
毎年100人前後が1年交替で都へ働きに行きました。
その仕事は1年に330日以上も働き、
その食料は飛騨から運ぶという過酷なものでした。
重労働に耐えかね、
逃げ出す者もいましたが
その中でも高度な
木工技術を
持った匠は、
有力者などに
引き抜かれ、
その技術を
発揮しました。
やがて、飛騨匠たちによって、
都の数々の建築物や
神社仏閣等が
建てられて
いきました。
都での仕事を終えて
飛騨に戻った匠たちは、
都の様子や文化を伝え、
また高度な技術を持った匠は、
都や日本各地でも活躍し、
「飛騨匠」の名を
広めていきました。
中世末期以降には、「飛騨匠」は、
高度な技術を備えた名工の代名詞と
なっていきました。
そして現在
現在は、
高山祭の春・秋の屋台や
町並み、神社仏閣、
飛騨の家具や飛騨春慶、
一位一刀彫などに
その技やこころが
受け継がれています。
万葉集にも詠まれた飛騨匠の心が
1300年後の今へつながっています。
奈良時代、税を免ずるかわりに
木工技術者を都へ呼ぶ
全国唯一の制度が、飛騨に定められました。
優れた腕を持った飛騨の職人たちは、「飛騨匠」と言われ、
高い技術と質素で実直な心意気が
今も飛騨の人々に受け継がれています。
「かにかくに…」は万葉の恋歌ですが、
"わき目も振らず、一心な飛騨匠が打ち出す墨縄のように
私の想いも一途ですが"と詠み込んだ
万葉人のロマン"を感じることができます。
飛騨匠の技・こころ
―木とともに、今に引き継ぐ一三〇〇年―
飛騨国府へのアクセス
●JR 高山本線ご利用
●高速バスご利用
●お車でお越しの方
お問い合わせは
高山市国府支所
〒509-4192 岐阜県高山市国府町広瀬町880-1 TEL:0577-72-3111
高山市飛騨匠日本遺産推進協議会
2018.03

飛騨国府ガイドマップ
Hida Kokufu Guide Map

飛騨国府には豊かな水・森・花・実りがあり、
飛騨びとのくらしを穏やかに包んでくれています。
そんな飛騨国府にある日本遺産認定の場所と
観光スポットをめぐるガイドマップ。
今に受け継がれた飛騨匠の技と心も
そっと感じてみてください。

日本遺産

① 清峯寺(白山神社)・円空仏(県指定重要文化財)
Seihou-Ji Temple (Hakusan-Jinja Shrine) Enku Buddha

清峯寺の円空仏3体（千手観音、聖観音、竜頭観音(各称は寺伝によるもの)）は、江戸時代、円空上人がこの地に滞在し、檜材に一刀彫りしたものと伝えられ、円空仏のなかでも最高傑作の一つと言われています。

高山市国府町鶴巣1320-2　TEL:0577-72-3582(管理人：古田勝二)
休業日／不定休　駐車場／無　トイレ／有
拝観料／300円　※要予約

② 木曽垣内大仏(県指定重要文化財)
Kisogaito Great Buddha

平安時代の作と考えられ、「木曽垣内の大仏」と呼ばれ親しまれています。像高は177cmあり、坐像では飛騨最大の仏像です。

高山市国府町木曽垣内588-1
TEL:0577-72-3111
(高山市国府支所)
休業日／不定休
駐車場／無
(隣接の木曽垣内公民館利用)　トイレ／無
拝観料／無料　※要予約

日本遺産 構成文化財

③ 阿多由太神社(本殿：国指定重要文化財)
Atayuta-Jinja Shrine(main hall)

木曽垣内地区にある、延喜式内飛騨八社の一つ。室町後期に建立されたとされる本殿は、比較的簡素な作りですが、技法・手法ともに優れ、国の重要文化財に指定されています。毎年12月30日にはみそぎ神事が行われます。

高山市国府町木曽垣内1023　TEL:0577-72-3111(高山市国府支所)
駐車場／普通20台　トイレ／無
※本殿は覆殿の中にあり、一般公開されていません。

日本遺産 構成文化財

④ 石橋廃寺塔心礎
(塔心礎、出土品官人絵瓦：市指定有形文化財)
central piller of Ishibashihai-ji Temple
(excaved roof tiles from Ishibashihai-ji Temple)

塔心礎が現存（場所は移転）しており、布目瓦が多く出土したことから、古代寺院の一つとされています。

高山市国府町広瀬町329-10　TEL:0577-72-3111(高山市国府支所)
駐車場／2台　トイレ／無

⑤ こう峠口古墳(県指定史跡)
Koutougeguchi Ancient Tomb

飛騨地方最大の前方後円墳です。石室は、大型石材によって構築されています。

高山市国府町広瀬町323　TEL:0577-72-3111(高山市国府支所)
駐車場／10台　トイレ／無
※石室内部は一般公開されていません。

⑥ 光寿庵跡(出土瓦：県指定有形文化財)
Koju-an relic(excavated roof tiles from Koju-an relic)

軒平瓦は奈良時代前期のものである可能性があり、縁をついた男子像などが描かれた人物戯画瓦や鳥と鳥籠の描かれた戯画瓦などがあります。

日本遺産 構成文化財

高山市国府町上広瀬
TEL:0577-72-3111(高山市国府支所)
駐車場／無　トイレ／無
※出土品は一般公開されていません。

金蔵獅子(県指定重要無形民俗文化財)
Kinzo-jishi Lion Dance

金蔵獅子は、飛騨から越中にかけ各地に伝承されている郷土芸能で、例祭時に奉納されます。国府町金蔵・広瀬町・上広瀬の金蔵獅子は、いずれも岐阜県の重要無形民俗文化財に指定されています。

例祭開催日／金蔵（置土神社）5月3日
・広瀬町（廣瀬神社、屋敷神社）5月4日
・上広瀬（加茂神社、屋敷神社）9月第3日曜日
TEL:0577-72-3111(高山市国府支所)

⑦ 宇津江四十八滝公園
Utsue Shijuuhattaki Waterfall

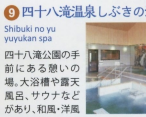
日本の自然100選、岐阜県名水50選に選定された約800ha(ヘクタール)の県立自然公園で、園内は石畳等が整備されています。名づけられた13の滝の中でも、王滝は高さが18.8mあり、訪れる人を魅了します。頂上にある上平滝までは約880m、所要時間は約2時間。

高山市国府町宇津江3235-86
TEL:0577-72-3948(案内所)
※冬期(12/1～3/31)0577-72-5526
営業期間／通年　※冬期は積雪のため滝めぐり不可
駐車場／普通150台、大型6台　トイレ／有
清掃協力金／大人200円、小人100円

⑧ 花の森四十八滝山野草花園
Hana no mori wild grass and flowerpark

四十八滝公園の一角にある花園に、クリンソウ約15万本(5月下旬～6月中旬)、ササユリ約175千本(6月中旬～下旬)、アジサイ約5千本(7月中旬～8月上旬)が咲きます。舗装された遊歩道は、車いすの方も安心してご利用いただけます。ウォーキングコースもあります。

高山市国府町宇津江3232-1
TEL:0577-72-3948(案内所)
※冬期(12/1～3/31)0577-72-5526
営業時間／開花期間中 9:00～16:00
休業期間／12月～3月　駐車場／普通150台、大型6台
トイレ／有　清掃協力金／大人300円、小人100円



⑨ 四十八滝温泉しぶきの湯 遊湯館
Shibuki no yu yuyukan spa

四十八滝公園の手前にある憩いの場。大浴槽や露天風呂、サウナなどがあり、和風・洋風ふたつの温泉は男湯・女湯が週単位で入れ替わります。他に岩盤浴もあり、よりリフレッシュできます。お食事処「滝」では地域の特産品・新鮮な食材を活かした料理が楽しめます。

高山市国府町宇津江964　TEL:0577-72-5526
営業時間／(4月～10月)10:00～21:30
(11月～3月)10:00～21:00
休業日／木曜日(祝日の場合は翌日)
駐車場／普通100台、大型5台
トイレ／有　入浴料／大人600円、子供400円
※岩盤浴は入浴料+400円で1時間の利用が可能

⑩ 桜野公園 Sakurano Park

戦国時代の末に、大和国吉野山から移植された桜が始まりと伝えられています。広瀬城主が桜を見て花見をした園内には遊具などもあり、お子様連れでのんびり遊んでいただけます。

高山市国府町広瀬町510-1
TEL:0577-72-3111(高山市国府支所)
見ごろ／4月中旬～下旬
駐車場／普通40台　トイレ／有

⑪ ピーチロード
Peach Road (Peach Orchard Promnade)

飛騨桃の産地「上広瀬」地区は、桜の開花に引き続き、桃の花が咲き誇り、あたりはやさしい色と香りに包まれます。5月中旬にはリンゴの花も咲き始めます。

高山市国府町上広瀬
TEL:0577-72-3111(高山市国府支所)
見ごろ／5月上旬

国府地域の昔ばなし「大蛇と四十八滝」

昔むかし、宇津江村の「ごえ八」は、母親に魚を食べさせたいと、山奥に魚釣りに出かけた。かし、その大沼で沼にいた大蛇の妖気に打たれ大熱にうなされてしまった。

その夜のこと美しい女が現れ、「私で夜に立つことでしたら手伝いをさせてください」と七日七晩寝ずの看病をしたが、女は次第にやつれていった。その間にかいなくなってしまった。

その後、ごえ八の熱もさめ、ようやく元気を取り戻してきたある夜、女が家に現れ泣きながら言った。

「私は山で修行をしていた大沼の大蛇です。屋を押して海に出ようと修行していましたが、近くに住んでいた「ごえ八」が、私の大蛇の大蛇を救おう」と山にこもり修行をしていたところ、大蛇が起き、大蛇は海に下ってしまった。翌日、その滝を残して行くことを登ったが、姿を見つけることができなかった。今には、土砂や木がなくなり、乾ずの滝が出来ていた。

出典：国府町のむかし話(国府町教育委員会編)

国府地域の昔ばなし「安国寺のきつね小僧」

昔むかし、安国寺に、よくなついて小僧と一緒に生懸命に修行をする子狐がおった。子狐は、尻尾を出さずに小僧に化けることも覚え、寺の和尚から蛇産（ゃぶさん）という名前をもらった。

和尚と一緒に、木曽福島で暮らしていた蛇産は、和尚から安国寺に手紙を届けるお遣いを頼まれ、喜び勇んで安国寺へ向かった。和尚からことえと一夜の宿でも決して佩帯の室には泊まるでないぞ」という言いつけはあったが、お腹が空いて疲れていた蛇産は、その夜、日和田村にある佩帯の家に泊まってしまった。

鉄製の箭穴から見た小僧さんが狐の姿であったため、退治されてしまった佩帯は、蛇産に狙いを定めて小僧に化けて近づいてきた。

血を流して倒れる小僧の姿に驚いた蛇産は、安心させるために、「私は狐ではありません。本当の姿をお寺の和尚様にお見せしましょう」と言い残して、正体を現すことなく成仏させてしまった。

安国寺には、「蛇産も狐の子と一緒に育てられた兄弟のようなものだ」と思った蛇産は、蛇産に狙われる前の晩に、「蛇ごとなやつじゃ」と、「蛇ごとなやつじゃ」と、「蛇ごとなやつじゃ」と